

ほほえみ



みんなはれ！東北・熊本・能登半島
きずな
絆を繋ぐ

どろんどろん
いっきまき
めるめるべたべた
たのしいな



子どもは社会の宝

いよいよ本格的な夏が到来し、輝く太陽がまぶしい頃となりました。ひまわりの花も夏の空に映えるように咲いています。令和6年度の日東子育て支援センターの活動もたくさんの方々にご利用頂いています。

2023年の日本の出生数は、約76万人、8年連続で過去最少となり、死亡数から出生数を引いた人口の自然減は加速しています。つい何年か前には待機児童の問題の解決に取り組み、沢山の保育施設が建設されました。

今後とも人口減少が進む中で、子育て家庭や地域社会から必要とされる保育施設の機能や役割を考えていきたいと思えます。それには、子ども1人ひとりの良い所を認め、自己肯定感を持った子どもたちが育つような施設でなければなりません。

乳幼児期は、人間としての根っこが育つ時期です。子どもたちの成長の状況はすぐにはみえませんが、乳幼児期の経験は一生の土台を作る大切なものです。子どもは「家庭の宝」「社会の宝」です。日進市の人々皆で子どもたちを大切に育てていきましょう。

私の子育て

私の育児

安藤 香穂

私は今、9歳と2歳の娘、0歳の息子の3人のお母さんをしています。私は小さいころからお母さんに憧れがあり、自分がお母さんになることを漠然と夢見ていたことを今でも覚えています。

いざ子どもがお腹に出来た時には、嬉しい反面、子どもを育てる不安を強く感じました。命を授かった責任を重く感じ、今振り返ると9歳の娘の時は、神経質になり過ぎていたと思います。圧倒的に心配事が多く、素直に喜んでいたのかな？と疑問に思うほどでした。

7歳差で2歳の娘が誕生して目まぐるしい毎日を送っている時、余計なことを考える暇もないことや9歳の娘の時の経験も活かされ、少し気持ちに余裕が生まれ、「育児って楽しい！」と思えるようになりました。9歳の娘からは「ママ、最近ずっと笑ってるね」と言われるほどでした。

0歳の息子が誕生し、2歳の娘はイヤイヤ期。赤ちゃんといやいや期の育児は想像以上にやわやわですが、「今日はこんなことがあったんだよ」と大変なエピソードを笑い話に変えて、家族で話している時間は楽しくてしかたがありません。

職業柄、子育てを終えた人生の先輩方とお話をさせて頂く機会が多いのですが、「子育てをしている時が一番大変だったけど楽しかった！充実していた」との声を多く聞きます。私が神経質に考え過ぎてしまった時間は子どもを思う親バカであるが故の時間。「あの時真剣に子育てに向き合ったから！」とプラス思考に考え、日々、子育て出来る環境に感謝し、これからも笑顔で楽しみたいです。



かけがえない時間

市川 知佳

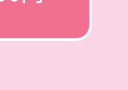
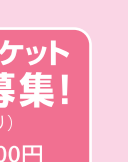
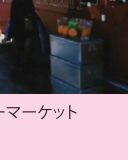
3歳の長男と1歳の次男、元気がいっぱい2人の男の子を育てる私は、毎日てんやわんやです。

上の子は元気いっぱい、家中を駆け回り跳ね回るのが大好き。一方、下の子は高速ハイハイで、兄を追いかけまわしたり、いたずらしたりと、とにかくパワフル！上の子が下の子をかまひ、仲良く遊ぶこともありますが、上の子は下の子のひとり遊びを邪魔したり、その逆で、下の子は上の子の遊びに興味を持ち近づいては怒られてを繰り返す、いつも喧嘩になっています。

しかし先日、寝る前に2人が私の体の上に乗ってじゃれあっており、何度注意してもやめなかったため、そろそろちゃんと叱ろうと、起き上がり、怒った口調で2人に話しかけようとしたところ、上の子が「弟のせいでないから弟には怒らないで！」と叫びながら、私の腕にしがみついてきました。いつもは弟に邪魔されて怒っている上の子が、弟を守ろうとした姿に、思わず胸が熱くなりました。

1年前突如あらわれた弟に、まだまだ甘えたいさかりなのに我慢しなきゃいけないことが増えて、言うことを聞いてくれないことも多いですが、少しずつお兄ちゃんとしての責任感を芽生えさせているようです。

2人の子育ては本当に大変で、毎日がジェットコースターのような慌ただしさです。それでも、子どもたちの成長を目の当たりにするたびに、かけがえない時間を過ごしていることを実感します。子どもたちのためというより、子どもたちからたくさんのことを学び、一緒に成長していきたいと思っています。



子どもは鏡

二宮 摩由加

私は今、4歳の男の子と3歳の女の子の子育てをしています。

1歳4カ月差の兄妹で下の子が産まれた時は、2人の育児で毎日があっという間に過ぎていきました。下の女の子は成長が早く、おしゃべりもすぐに上手になり自分の意思をはっきり伝えて譲らない。出来ることもどんどん増え、上の男の子といつものケンカ。優しい性格の上の子を泣かすこともたびたびで、上の男の子は、それがよくやしいと応戦し、ますますヒートアップ。お互い手加減がわからず2人とも泣き出す。その繰り返しでした。

私も余裕がなくなりイライラして、子どもたちに強く怒ってしまいがち反省する日々。寝ている子どもたちの寝顔を見ながら「ごめんね、ごめんね」と謝っていました。

ある日、下の女の子に怒っている上の男の子の姿を見てびっくり。私が怒る時の言い方と表情がそっくりなのです。似すぎていて、その場では思わず笑ってしまいました。たが反省しました。いつもこんな風に怒っていて、それを子どもたちはよく見ているのだと思いました。

その日から怒る際に気を付けるようになり、感情的ではなく考えてから子どもたちに伝えるようになりました。親の姿を見て、色々なことを吸収している今の時期。怒った顔や真似してほしくないこと、嬉しいと思うので、笑顔で過ごそうと心がけるようになりました。相変わらずケンカばかりの子どもたちですが、仲良く手を繋いで歩く姿や遊びながらゲラゲラ笑う姿を見るとこちらまで幸せな気持ちになります。年が近い分、友だちのように成長している2人の姿をこれからも見届けていきたいです。

龍谷寺道了カルチャーマーケット & 日東バザー

日時/令和6年10月26日(土)
10時~17時
場所/龍谷寺境内・日東保育園
(日進市藤島町寺下甲29)

当日は世界の恒久平和と自然との共生を祈る祭典「道了大権現探灯大護摩供」のほか、様々な新しい文化を龍谷寺から発信する「道了カルチャーマーケット」を開催します。売り切れ必至のパン屋さんやキッチンカーなど日進市内外から約40店舗が軒を連ねます。



双葉会売店

日東バザー

年1回開催される日東バザーや、恒例の双葉会売店やフリーマーケットは掘り出し物でいっぱいです。



道了カルチャーマーケット



フリーマーケット

**フリーマーケット
出店者募集!**
(出店数に限り有り)
★出店料 1,000円
(2.5坪×4坪)

アタッチメント



アタッチメントは「幸せ」の基盤

子どもたちが砂遊びや縄跳び、遊具で思い思いの遊びをしています。自分の思いをいっぱい出し、安心して遊ぶ姿を支えているのは何でしょう？

「不安なことや怖いことがあれば必ず信頼できる大人にくっつくことができるという安心感」です。信頼できる大人へのアタッチメントを通して「安心の基盤」が心の中に形成されているので、遊びに没頭できるのです。子どもも大人も心の中にアタッチメントが形成されていることがとても大切です。

「アタッチメント」(愛着)が今また注目されています。子育ての時はもちろんのこと、小学生、中学生、大人になっても必要とされるものです。もともとの意味は「くっつくこと」。不安や恐怖を感じた時に「特定のだれか」にくっつきたいと願い、行動し、安心感を得ようとする本能的な欲求や行動のことです。

小さな子どもが友だちと喧嘩をして、泣いて親に駆け寄る。大人が職場で頼れる同僚に悩み事を相談する。私たちが日々当たり前に行っている行動のなかに「アタッチメント」は存在しています。

「アタッチメント」が教えてくれるのは、人間にとって「安心感」がいかに大事かということです。子どもたちが健やかに成長し、自立してくため、大人も心と体が健康なことが必要なのです。

ASD(自閉スペクトラム症)の子どもは、見たり、聞いたり、触れたりして取り込んだ情報の処理の仕方が独特です。大人なら何でもないような刺激に大きなストレスを感じて泣き続けたり、急な予定の変更にはパニックを起こしたりします。タイミングよくかわり続けるのは難しいですが、子どもの感情が崩れた時、根気よく関わり続けることで「この人が何とかしてくれ」と理解し、時間はかかってもアタッチメントは形成されます。

大人は安心感の基地



子どもは予想外の出来事が起こり、怖くなった時、不安になった時は泣いたり、不安そうな顔をしたりとシグナルを発します。この時に励ましの声をかけるだけで立ち直ることもあります。シグナルがない時は、そっと見守ることも必要です。

子どもの発達は、安心感の輪の回転と広がります。それには、子どもの活動の拠点となる「基地」が必要です。「基地」に求められるのは、子どもの求めに応じて受け入れられる避難所としての役割と子どもの状態を整え、再び送り出す役割です。子どもが避難してきたときに確実に受け止め、必要な保護を与えることが大切です。「受け入れるかどうかかわからない」という基地や「おとなしくしないと受け入れられない」という基地では、輪が回りにくくなります。また、何かつらい目に合うのではと子どもの後をついて回ったり、先回りして誘導したりするとすれ違いが生じます。

これまでの様々な研究から幼少期に経験した親や周囲の大人とのかわりがその後成長したからも、その人の人間関係や心身の健康に影響を与えるということが知られてきました。

乳幼児期の経験が重要

「特定のだれか」にくっついて安心感を取り戻すことで、子どもは自分が守ってもらえる存在か、人を信頼できるかどうかというところが決まっています。子ども自身の心の発達にも影響します。また不安な気持ちをなだめてもらう中で子どもの感情は豊かになっていくとともに、大きなストレスに対して身体面の不安も減らします。

アタッチメントは特定の人との間で成り立ちます。赤ちゃんにとって、アタッチメントの対象は、養育者である親であることが大半です。生まれて間もない赤ちゃんは「不快」な状態に陥ると大きな声で泣き出します。周りの大人がそばに来てくれてお腹が満たされたり、おむつを替えてくれたりすると「快」が得られます。初めのうちは、泣いていた時に来てくれる人が誰であっても、不快さを取り除いてくれるれば、赤ちゃんは満足します。

親が赤ちゃんの世話を継続的にいき、かわり続けると、赤ちゃんは「泣いたときに来てくれる人」を認識し、心の状態が崩れると、その人にくっつきたくなくなります。泣いていると抱き上げてあやしてくれる、その人との関係は赤ちゃんにとって特別な人となり、アタッチメントが形成されます。

一緒に楽しむ

アタッチメントは、子どものネガティブな感情に端を発し、マイナスの状態をプラスに転じさせるようなかわり方です。子どもの発達を促すかわり方として、子どものワクワク感に答え、一緒に遊んだり、子どもの知りたいことに答えるやりとりは、安心感の輪を広げることに繋がります。

たとえば、絵本など子どもと一緒に眺めながら、「これは○○だね。何をしているのかな」など楽しみながら気持ちを共有しあれば、コミュニケーションの発達も促します。幼い子どもはスキンシップを好みます。体を使ったふれあい遊びを一緒に楽しむことは、子どもの楽しい気持ちを高めるにはよい方法です。

子育て中は、泣き止まぬ子どもにへとへとになり、自信をなくすこともあるでしょう。初めから完璧な対応をしなれば、と気負うことはありません。むしろ、成功や失敗を繰り返すことで、自分らしい子育ての形を見つけていくにつれていきます。一生懸命、子どもと向き合う時間は子どもの根っここの部分を育て、心を育んでいくのです。

アタッチメントの問題

育てにくさを感じる子どもに「泣いたら、抱き上げてあやす」という安定的なかわり方を続けるのは簡単ではありません。子どもの発達は1人ひとり違います。すぐ泣き止む子もいれば、そうでない子もいます。よく泣くのは感受性が豊かだともいえます。発達のしかたによる特有の傾向は、その子の特性として基本的にずっとあり続けます。発達に不安があると感じられる場合は、その特性を理解したうえで接すること。親や主たる養育者だけで抱え込まず、保育園などその負担感を減らす周囲からのサポートが必要になってきます。

発達に不安がある場合

ADHD(注意欠如・多動症)は、つい衝動的に行動してしまう、じっとしてられない、気が散りやすいといった形で現れます。怖さや不安は感じて行動を止めにくいのです。しかし怒ってもその特性が変わるわけはありません。危険な行動は制止し、安心感を取り戻す助けが必要です。

- できるだけ安全な環境を確保する
- ルールを設定し、約束させる。守れたらほめる
- 子どもがちらりと振り返ったタイミングでアイコンタクトや言葉で制止する
- 行動を止められず、怖い思いをした子どもをなぐさめ、ルールについて話し合う

子どもの育ちを木にたとえる

- アタッチメント=土
子どもの発達においてアタッチメントは土のようなもの。安定した土(アタッチメント)が、子どもの育ちを支えます。
- 心の力=幹
子どもの発達において、幹となるのは心の力です。木はしっかり根を張り、栄養を吸い上げると幹は太くなっていきます。
- 学力・知能、さまざまな能力=葉や花や実
苗木が十分に育てば、たくさんの枝が出て葉をつけていくように、子どものできることが増えていきます。子どもの学力や知能も伸ばそうと焦らないことが大切です。
- 身の回りの世話=水やりや肥料を与える
木は水がなければ、枯れてしまいます。根を強くしたり、実を大きくしたりする肥料も必要です。子どもも毎日のケアが大切です。
- 環境の整備=鉢の植え替え
大きな木を育てるには、木の成長に合わせて大きな鉢に植え替えるなど、子どもの発達に応じた環境整備が必要になってきます。
- 温かな見守り=日光
木が育つには、日光は欠かせません。子どもが育つうえでも、安心して過ごせる温かな見守りが重要です。



ふれあい遊び わらべ歌で「あそぼ!」

QRコードから「このここのこ」「ふくすけさん」「いっぼんばし」のわらべ歌がご覧いただけます。ぜひ、お子さんと一緒に遊んでみてください。

「このここのこ」



「ふくすけさん」



「いっぼんばし」



参考文献 遠藤 利彦監修「アタッチメントがわかる本」(講談社) 遠藤 利彦著「赤ちゃんの発達とアタッチメント 乳児保育で大切にしたいこと」(ひとなる書房)